



資料1 第1回審議会の振り返り

第1回審議会の概要

日時

令和5年8月17日（木）14:00～15:30

場所

あやめ会館（長岡中央公民館）2階会議室

次第

- 1 開会
- 2 委員委嘱
- 3 市長挨拶
- 4 会長・副会長選出
- 5 諮問
- 6 議題
 - ・議題1 市民憲章について
 - ・議題2 伊豆の国市民憲章（案）の策定の進め方について
- 7 その他
- 8 閉会

市制20周年に向け
市民憲章審議会
伊豆の国市
伊豆の国市は17日、2025年4月の市制20周年に向け、市民憲章審議会の第1回会合を同市のあやめ会館で開いた。

市内の学校関係者や市商工会職員ら8人が委員の委嘱状の交付を受けた。浜松市や県外自治体の市民憲章を参考にしつつ、策定までの流れを話し合った。委員からは「多くの市民から策定に携わったと言ってもらえる憲章にしたい」「子どもたちの主体的な議論も必要」など意見が出た。



伊豆の国市市民憲章審議会の第1回会合
＝同市のあやめ会館

今後複数回の会合や市民への意見聴取などを経て策定し、25年4月に市民憲章を披露する。

2023年8月18日静岡新聞記事より

20周年へ市民憲章案作成

伊豆の国市 審議会委員8人を委嘱
市制施行20周年の一大き節目となる。伊豆の国市は17日、第1回市民憲章審議会を同市のあやめ会館で開いた。有識者や市民代表ら8人を委員に委嘱し、山下正行市長が推薦状を市長（右）に諮問書を手渡す。山下市長は「子どもたちの主体的な議論も必要」など意見が出た。審議会では、市民憲章を市民が一体となって歩む未来に向けた道しるべと位置づけたい。その上で、市民の思いや願いが表現されるように、心の支えとなる永久的な理想を掲げた市民憲章案の作成を求めた。

山下市長は「子どもたちが主体的な議論も必要」など意見が出た。審議会では、市民憲章を市民が一体となって歩む未来に向けた道しるべと位置づけたい。その上で、市民の思いや願いが表現されるように、心の支えとなる永久的な理想を掲げた市民憲章案の作成を求めた。



柴会長（右）に諮問書を手渡す山下市長
＝伊豆の国市のあやめ会館

2023年8月19日伊豆日日新聞記事より

委員意見一覧（抜粋）

市民憲章の策定について

市民憲章は一つの手段であり、最終的なゴールは市民の自治意識の涵養である

市民憲章そのものも重要であるが、策定の過程で市民がどれだけ参加したのかが最も重要となる

市民憲章の策定を通じて、伊豆の国市の特色、魅力を一つのパッケージでアピールすることで一体感の醸成が必要

その他

大仁町に町民憲章があったことを初めて知った

市民からの意見聴取について

大人から子どもまで、自分たちの価値観を市民憲章に反映させることで、使命感を持つことにも繋がる

子どもたちから意見を聴取するに当たり、ただ意見を聞くだけでなく、自分たちが住む地域のことを知っているのか、主体的な議論を持って意見を出してもらうことが重要

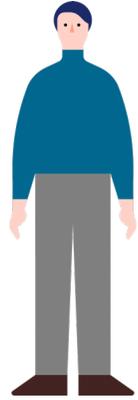
なぜ策定するのかベースとなる部分がないと、子どもたちも意見出しが難しいので、子どもたちのこんなまちであつたらいいな、という想いが反映されている憲章としてほしい

第1回審議会を踏まえて



*1…「自分たちの住むまち（≠生まれ育ったまち）をより良いものに、誇れるものにしていこう」という思いであり、「地域を育み、そのために行動する」という主体的な態度や行動を含む

市民憲章の役割



市民憲章の役割は

「簡潔で肯定的な行動目標を掲げることにより、一人ひとりの市民が、
年齢・性別・職業・立場等に関係なく、市のために
その時自分にできる良いことを思い浮かべ、それを自らの意思と力で実行する」

局面を増やしていくこと

